

はじめに

祇園橋は、天草市本渡の中心を流れる町山口川に架けられている石橋です。

普通、石橋といえ、山都町矢部の通潤橋や美里町砥用の霊台橋のような眼鏡橋が普通です。

天草にも、この形式の橋が、いくつか現存しています。楠浦方原川の眼鏡橋、本町広瀬川の市ノ瀬橋などが有名です。

しかし、祇園橋は、これらの橋とは一風変わった独特の形式をしています。

そして、この形式の橋としては、日本一の大きさを誇ります。また、長年の風雪に耐え、現在も現役橋として活躍しています。

歴史遺産価値に加え、景観的価値もあるとして、平成九年十二月に、「国指定重要文化財」に指定されました。

天草は、観光的に宝島として売出し中ですが、この祇園橋こそ、天草第一級の宝と言えましょう。

天草には、この祇園橋の他に、富岡の天草島原の乱首塚と天草四郎陣中旗が国指定重要文化財になっています。

余談ですが、天草を宝の島と読んだ最初の人は誰でしょう。

それは、無実に近い罪で、天草に流されてきた定舜上人です。定舜上人は祇園橋竣工時に生きていた人です。彼は流人とはいえ、各地へ旅に出ることを許された人だったので、もしかしたら、祇園橋を渡っているかもしれませんね。

上人が書いた「天草郡略志」にこのように書かれています。

「余が配所は、僅か四百石高の村なれども、村の広さ、長二里、横一里余りて、山多くありて、年々山より出る木材・薪炭等の物成凡そ三千五百両余。田作凡そ粃五斗入五千俵余、その他これに準ずる諸色物成が有る。いずれの村にも凡そこれに応じて土産あり。また浜付きの村には、海中より上がる所の産物等、なかなか山村の村の十倍はあるよし。総じて土地の豊饒なることは、海山村野ともに具足してあれば、実に十分の土地と云い、海中の**宝島**ともいふべし。」

私たちは、先祖が残してくれた、文化財を大事に守っていく使命があります。

でも、私たちは、祇園橋について、どれだけのことを知っているでしょうか。

そこで、Q & A形式で、祇園橋について学ぶことにしましょう。

